

授業科目	日本語教育方法論演習 I				単位	2		
履 修	選択	関連資格	日本語教員		ナンバリング			
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP3-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	矢野 花織							
授業概要	日本語教師に必要なのは理論と実践のバランスである。本演習では日本語教育方法論 I, 日本語教育方法論 II で学んだ知識をもとに、理論を実践の場に生かす訓練をする。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬授業体験を通じた学びに基づき、教える際に気をつけるべきポイントを感知できる。 2. 教師としての自分の言動を意識化できる。 3. 座学だけでなく自分やクラスメートの実践から学ぶことができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	30	20	50	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)						50	50	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)				30			30	
態度(DP4-2)					20		20	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。				<ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬授業体験を通じた学びに基づき、教える際に気をつけるべきポイントを感知できる。 2. 教師としての自分の言動を意識化できる。 3. 座学だけでなく自分やクラスメートの実践から学ぶことができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	オリエンテーション 授業の概要、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。	講義・演習	復習: 該当部分の復習	60
2	日本語の教え方の基本 外国語を学んできた経験をもとに、外国語としての日本語を教えるイメージを体感する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
3	日本語の単語について学ぶ 日本語の単語の種類と相互の関係を確認し、その教え方を考え、指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
4	日本語の音声について学ぶ 日本語の発音、アクセント、イントネーション、リズムについて確認し、その教え方を考え、指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
5	日本語の表記について学ぶ 日本語の表記や漢字の導入などについて確認し、その教え方を考え、指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
6	日本語の文法について学ぶ① 文型や文法および名詞に関する知識を確認し、その理解を深めると同時に、その教え方を考え、指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
7	日本語の文法について学ぶ② 文型や文法および動詞・形容詞に関する知識を確認し、その理解を深めると同時に、その教え方を考え、指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
8	日本語の文法について学ぶ③ 初級文法を復習し、その教え方を考え、指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
9	ドリルについて学ぶ ドリルの役割と種類について学び、指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
10	会話について学ぶ 日本語での自由な会話の種類と方法について学び、指導を体験する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
11	技能別の教え方を学ぶ① 聞き方の指導方法を理解し、対象者に合わせて工夫し実践する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
12	技能別の教え方を学ぶ② 話し方の指導方法を理解し、対象者に合わせて工夫し実践する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
13	技能別の教え方を学ぶ③ 読み方の指導方法を理解し、対象者に合わせて工夫し実践する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
14	技能別の教え方を学ぶ④ 書き方の指導方法を理解し、対象者に合わせて工夫し実践する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
15	まとめ 前期で学んだことの振り返りを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
16				
17				
18				
19				
20				

21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
	日本語教育方法論 I 及び II で学んだこと。			
理解に必要な予備知識や技能	日本語教育方法論 I 及び II で学んだこと。			
テキスト	『日本語教育のミカタ ー対話で具体的に学ぶ新しい教科書ー第 2 版』荒川洋平(凡人社)(2021)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『クラスルーム運営』横溝紳一郎(くろしお出版)(2011) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上巻』川口義一・横溝紳一郎(ひつじ書房)(2005) 『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』高見澤孟(アスク)(2016)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	1. 出席と積極的な参加を重視します。 2. 欠席 1 回につき、「出席を含む授業態度」が 3 パーセントずつ減点されます。 欠席 5 回で自動的に不可となり、遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とみなされますので、正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと 3. 模擬授業体験・教材作成等、「実際にやってみる」ことが多い授業です。試行錯誤の中から、たくさんのごとを学んでください。			
達成度評価に関するコメント	「達成度評価」の「その他」は、授業への積極的参加とします。			

